ラムネ飲む

東川あさみ

和菓子屋の蔵窓に触れ梅雨の蝶
格子戸の手擦れ光や蔦茂る
夏至の日や餃子ぎりぎり羽育て
むし笑ひの赤子の丸し団扇風
上役が夏落葉掃く美術館

真昼間の独りごと聞く水中花
青嵐知らず知らずに前のめり
籠り居の時を忘るる夏の星
滝風のとどきて急に寡黙なり
わかりきつたる理屈も歪み炎天下
思春期の無口は鎧ラムネ飲む
空き箱にメモ書き残る夜の秋